

パネルディスカッション

「領域『表現』の考え方を軸に、子どもの音楽に関わる表現指導を養成校の立場から考える」

企画・司会：二宮紀子（十文字学園女子大学）

パネラー：赤津裕子（竹早教員養成所）、長谷川恭子（秋草学園短期大学）、駒久美子（千葉大学）

指定討論者：三沢大樹（東海大学）、伊集院理子氏（十文字女子大附属幼稚園 園長）

「子どもの音楽表現をどのように捉えるか」によって「保育者に求められる、子どもの音楽表現を指導する力とは何か」の捉え方が変わり、授業内容も変わってくるのではないのでしょうか。「保育者に求められる、子どもの音楽表現を指導する力」をどのように捉えるかが授業構成のかなめになるのが、科目名称は各養成機関によって異なるとしても「保育内容の指導法（表現）」の授業であろうと思われます。

本パネルディスカッションでは、パネラーがそれぞれの所属校で実践している「保育内容の指導法（表現）」の実践例をもとに、どのように子どもの音楽表現を捉え、どのような力を学生につけてほしいと考えているか話題提供をしていただきます。

さらにこうした「保育内容の指導法（表現）」の授業を行うに当たって、弾き歌いやピアノ、歌唱といった授業をどのように行っているか、あるいは『領域に関する専門的事項』として、どのような授業を置いているのか、あるいは「保育内容の指導法（表現）」以外に発展的に行われる授業があるのかなどについても、カリキュラムマップを下敷きに、話題提供をしていただきます。

また、指定討論者の三沢先生には幼小連携の立場から、就学前の子どもの音楽に関わる表現能力をどのように考えるのか、就学前の子どもにはどのような経験をつんでおいてほしいかについて、前日の講演者、伊集院理子先生には、養成校に望むことについてご意見をいただきます。